

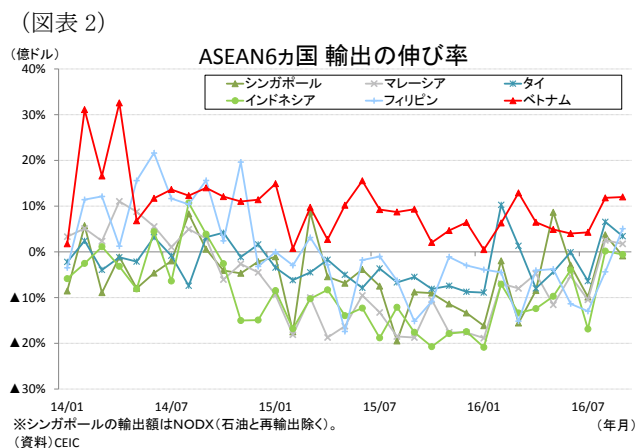
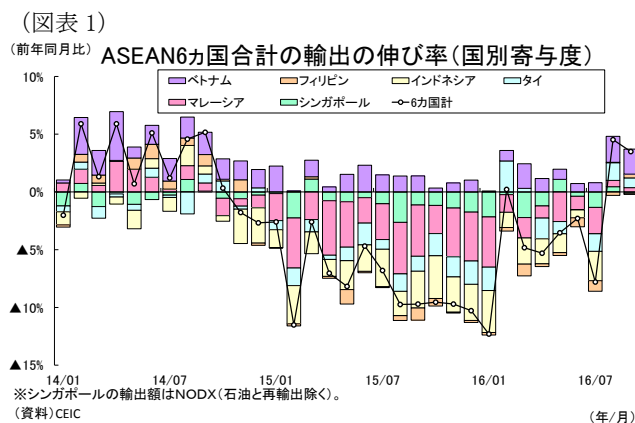
# 経済・金融 フラッシュ

## 【東南アジア経済】 ASEANの貿易統計(11月号) ～2ヵ月連続プラス 輸出回復の兆し

経済研究部 研究員 齊藤 誠

TEL:03-3512-1780 E-mail: msaitou@nli-research.co.jp

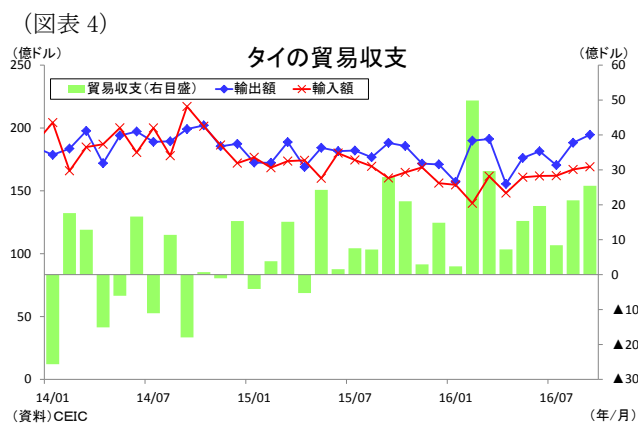
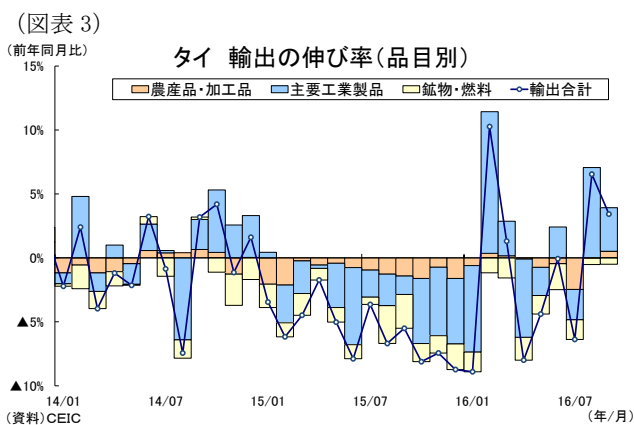
16年9月のASEAN主要6カ国の輸出（ドル建て通関ベース）は前年同月比3.5%増と、前月の同4.5%増から低下した（図表1）。輸出は7月こそ海外需要の鈍化やレバラン（断食明け大祭）に伴う営業日数の減少によって下振れたものの、その後は2ヵ月連続のプラスとなり、緩やかな回復の動きが見られる。



タイの16年9月の輸出額は前年同月比3.4%増（前月：同6.5%増）と低下した（図表3）。それでも主力の工業製品を中心に2ヵ月連続でプラスとなり、輸出は回復傾向にある。

品目別に見ると、全体の約8割を占める主要工業製品は同4.2%増（前月：同9.0%増）と低下した。電子製品・部品（同3.8%増）、家電製品（同12.2%増）、機械・装置（同10.6%増）など幅広い品目がプラスを維持したものの、自動車・部品（同1.8%増）の伸びが大幅に低下したことが全体を押下げた。また鉱業・燃料は同13.5%減（前月：同11.9%減）と、引き続き石油製品を中心に前年割れとなった。一方、農産品・加工品は同3.2%増（前月：同0.2%減）と、アフリカ向けを中心にコメ（同6.4%減）が増加に転じたほか、ゴム（同12.1%減）のマイナス幅が縮小、さらにタピオカ（同7.2%増）や果物（同70.9%増）も上昇して6ヵ月ぶりのプラスとなった。

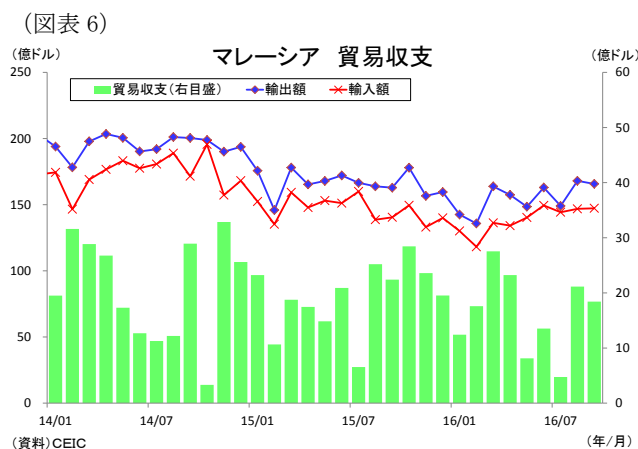
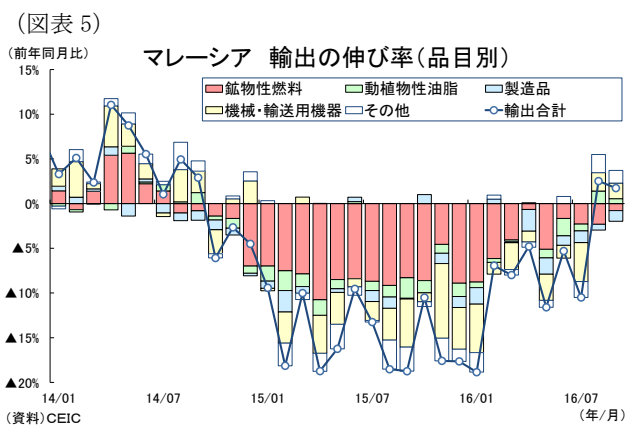
輸入額は前年同月比5.6%増と、前月の同1.5%減から上昇した。結果、貿易収支は25.5億ドルの黒字（前月から4.2億ドル増加）と、17ヵ月連続の黒字となった（図表4）。



マレーシアの16年9月の輸出額は前年同月比1.7%増（前月：同2.5%増）と低下した（図表5）。輸出は鈍化したとはいえ、主力の機械類と動植物性油脂が2ヵ月連続でプラスとなるなど年明けからの底打ちに向けた動きは続いている。

品目別に見ると、全体の約4割を占める機械・輸送用機器が同4.0%増（前月：同4.7%増）と、冷暖房機器・部品が大きく落ち込んで低下した。また動植物性油脂も同8.4%増（前月：同22.0%増）と、パーム油を中心に低下した。一方、鉱物性燃料は同5.2%減（前月：同16.2%減）と、天然ガスを中心にマイナス幅が縮小した。

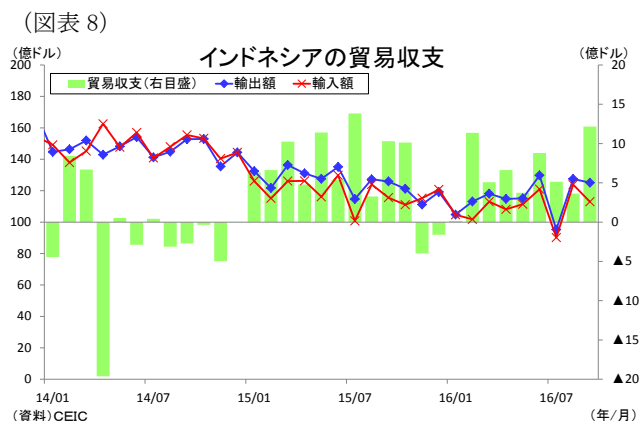
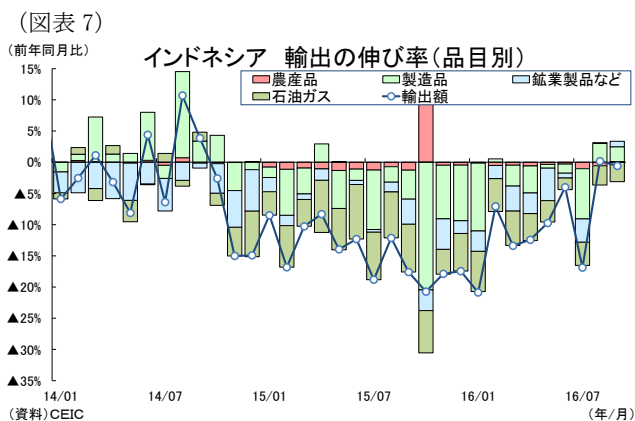
輸入額は前年同月比4.9%増と、前月の同5.9%増から低下した。結果、貿易収支は18.4億ドルの黒字と、前月から2.7億ドル黒字が縮小した（図表6）。



インドネシアの16年9月の輸出額は前年同月比0.6%減（前月：同0.2%増）と低下した（図表7）。7月こそレバラン（断食明け大祭）に伴って営業日数が少なかったことから下振れたが、8月以降は再び底打ちの兆しが見られる。

品目別に見ると、輸出全体のそれぞれ1割強を占める石油ガスが同27.0%減（前月：同25.6%減）と引き続き全体の重石となる一方、製造品が同3.3%増（前月：同4.2%減）と機械類を中心に拡大傾向が続いている。また鉱業製品が同7.0%増（前月：同0.9%増）と2ヵ月連続のプラスとなったほか、農産品も同3.5%増（前月：同17.6%減）と21ヵ月ぶりのプラスに転じた。

輸入額は前年同月比2.3%減と、前月の同0.1%減から低下した。結果、貿易収支は12.2億ドルの黒字と、前月から8.5億ドル黒字が拡大した（図表8）。



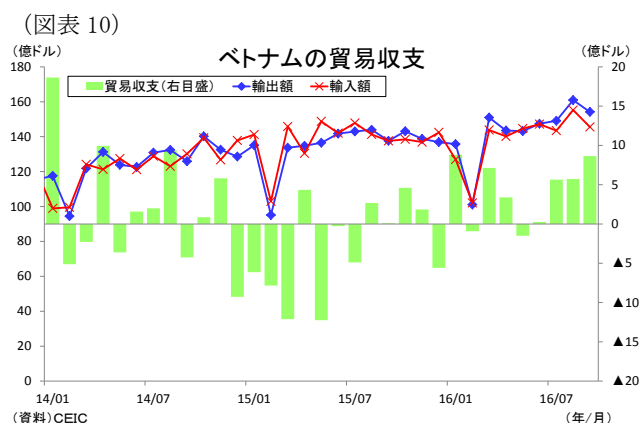
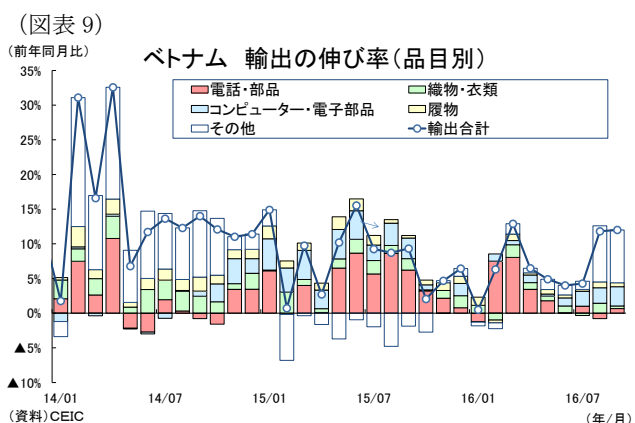
ベトナムの16年9月の輸出額は前年同月比12.0%増(前月:同11.8%増)と若干上昇した。主力の電話・部品が増加に転じ、輸出の勢いが再び強まってきている(図表9)。

品目別に見ると、輸出全体の約2割を占める電話・部品が同3.2%増(前月:同3.7%減)と2ヵ月ぶりのプラスとなり、コンピュータ・電子部品も同28.3%増(前月:同22.6%増)と一段と拡大した。このほか、コメ(同13.9%増)やコーヒー(同52.4%増)、水産物(同8.1%増)などの食品も好調だった。一方、織物・衣類は同2.4%増(前月:同9.1%増)と大きく低下したほか、履物は同9.7%増(前月:同12.6%増)と高水準ながらもやや鈍化した。

資本別に見ると、輸出全体の7割を占める外資系企業は同14.0%増(前月:同12.1%増)と一段と上昇したものの、地場企業は同7.5%増(前月:同11.1%減)と鈍化した。

輸入額は前年同月比5.8%増と、前月の同9.9%増から低下した。結果、貿易収支は8.6億ドルの黒字(前月から2.9億ドル増加)と、4ヵ月連続の黒字を確保した(図表10)。

なお、10月11日には韓国サムスン電子の新型スマートフォン「ギャラクシーノート7」の生産の打ち切りが発表されおり、今後はサムスン製品の組み立て工程を請け負うベトナムの輸出の悪化が懸念される。

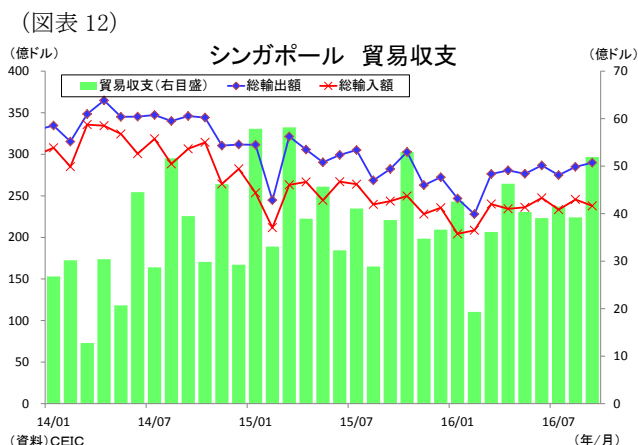
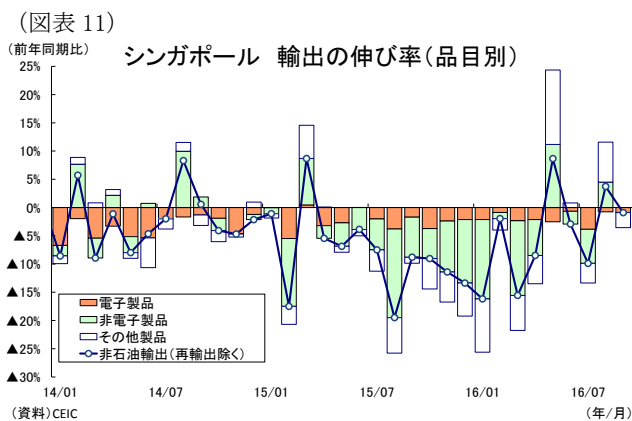


シンガポールの16年9月の輸出額(石油と再輸出除く)は前年同月比0.9%減(前月:同3.7%増)と二ヵ月ぶりのマイナスに転じた(図表11)。輸出の伸び率は上下に振れる展開となっているものの、総じて年明け以降の底入れに向けた動きは続いていると言える。

品目別に見ると、輸出(石油と再輸出除く)全体の約3割を占める電子製品は同2.8%減(前月:同2.5%減)と小幅に低下した。PC(同17.5%増)とダイオード・トランジスタ(同10.1%増)が

増加したものの、IC（同2.4%減）やPC部品（同19.2%減）、通信機器（同15.5%減）が減少した。また同じく全体の約3割を占める化学製品は同9.8%増（前月：同8.2%減）と、7ヵ月ぶりにプラスに転じた。このほか、石油化学製品が同2.7%減（前月：同12.7%減）、その他製品が同6.4%減（前月：同19.0%増）と減少したものの、医薬品が同21.0%増（前月：同14.8%減）とプラスに転じた。

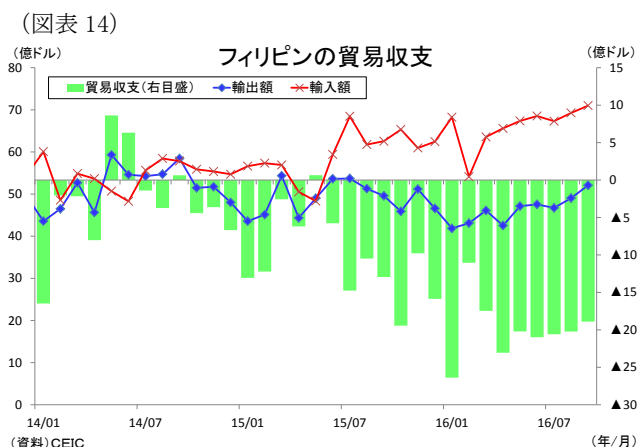
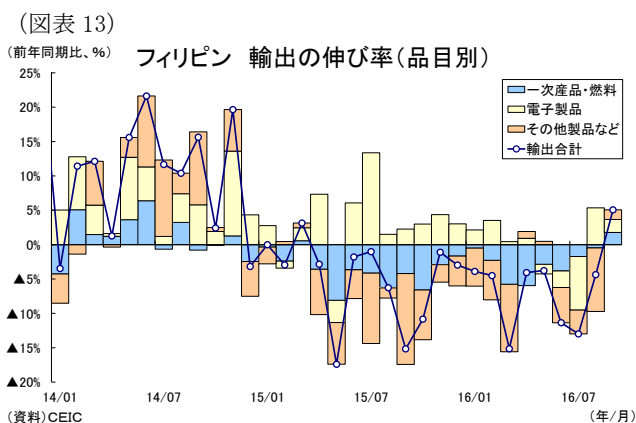
総輸出額は前年同月比2.7%増（前月：同6.0%増）、総輸入額は前年同月比2.3%減（前月：同2.5%増）と、それぞれ低下した。結果、貿易収支は51.9億ドルの黒字と、前月から12.7億ドル黒字が拡大した（図表12）。



フィリピンの16年9月の輸出額は前年同月比5.1%増と、前月の同4.4%減から上昇した（図表13）。輸出の牽引役である電子製品に加え、幅広い品目が持ち直し、輸出の停滞懸念は払拭されつつある。

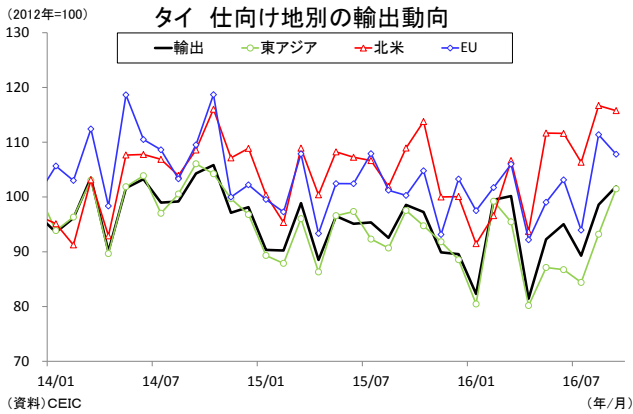
輸出シェア上位10品目を見ると、まず輸出全体の約5割を占める電子製品は同3.6%増と、増加傾向を維持したものの、前月（同11.6%増）から低下した。電子製品の中では、電子データ処理機（同16.2%増）と半導体デバイス（同2.7%増）がそれぞれ低下した。一方、その他9品目を見ると、機械・輸送用機器（同3.0%減）と木工品・家具（同0.9%減）こそ減少したものの、その他鉱産物（同97.5%増）や電子機械・部品（同66.3%増）、金属部品（同18.2%増）、化学（同10.8%増）、アパレル（同10.2%増）、イグニッション・ワイヤーセット（同5.1%増）、その他製造品（同3.2%増）など幅広い品目が増加した。

輸入額は前年同月比13.5%増と、前月の同12.2%増から上昇した。結果、貿易収支は18.9億ドルの赤字と、前月から1.3億ドル赤字が縮小した（図表14）。

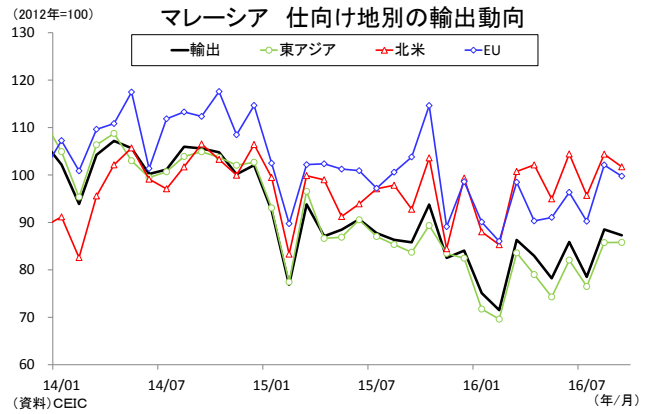


(参考) 仕向け地別の輸出動向

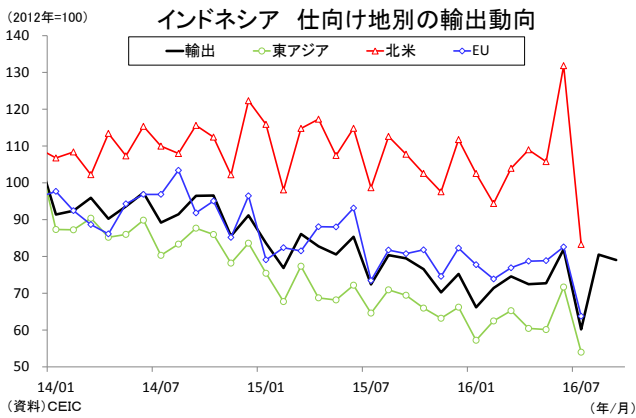
(図表 15)



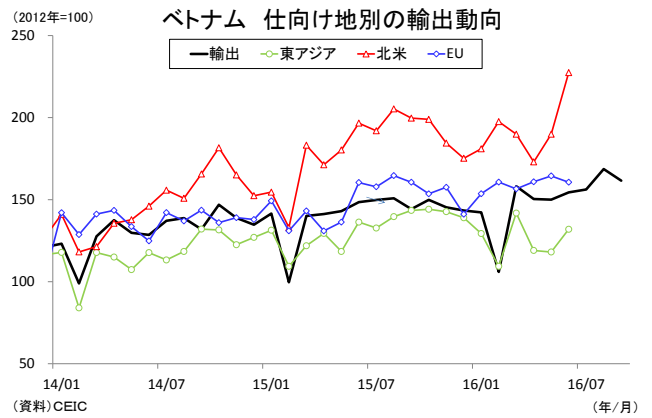
(図表 16)



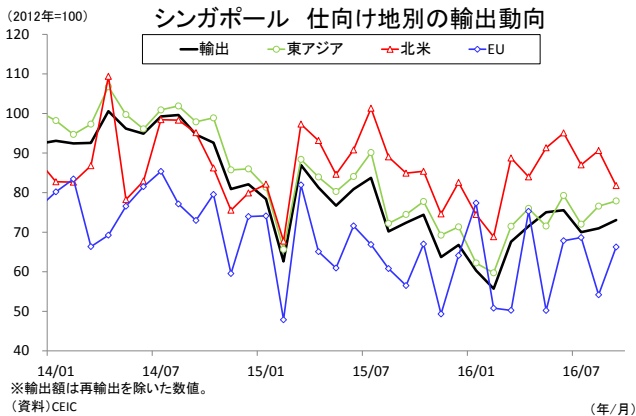
(図表 17)



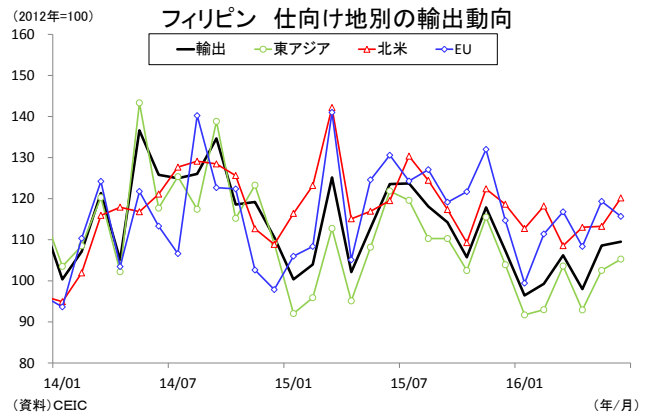
(図表 18)



(図表 19)



(図表 20)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。